



『東北圏だより』

「阿武隈急行沿線地域の活性化へ官民が連携！地域活性化フォーラムを開催」

東北財務局

東北財務局は、地方公共団体による地方創生・地域活性化への取組をサポートしていくため、東北各地で、地域のメインプレイヤー（金融機関、商工団体、大学、事業者等）と連携したフォーラムを開催しています。このうち、福島・宮城両県にまたがる阿武隈急行沿線の地域活性化をサポートする取組をご紹介します。

平成28年12月より、東北財務局は、本線の有効活用や広域的な連携に関する課題を解決するため、産官学金の16機関と連携し、実務担当者によるワーキンググループ（WG）を設置し意見交換を行ってきました。WG（これまで6回開催）では、本線沿線地域の課題・現状や将来見通しを把握し、地域経済活性化支援機構から地域資源を観光に活用した取組を紹介いただくなど全国の参考事例を共有したうえで、課題解決に向けたアイデアや提案、具体策を検討してきました。

平成29年5月、地方公共団体首長や東北運輸局長、地域金融機関の役員等が出席した「阿武隈急行沿線地域活性化フォーラム」において、これまでの議論をとりまとめた報告書が決議されました。

この報告書には、安心安全なまちづくりや賑わいづくりへの本線の活用などの地方公共団体と連携した取組のほか、つり革オーナー制度と組み合わせたクラウドファンディングによる資金調達など金融機関と連携した取組、新車輻である「政宗ブルーライナー」（写真参照）を活用した交流人口増加策や情報発信の強化に向けた取組などが盛り込まれており、フォーラムでは、参加機関が一体となってこうした取組を実施していくこと、定期的にフォローアップ会合を開催することが合意されました。



▲阿武隈急行沿線地域活性化フォーラムの様相



▲中田東北財務局長から仁志田伊達市長への報告書の提出



▲新型ラッピング車輻「政宗ブルーライナー」

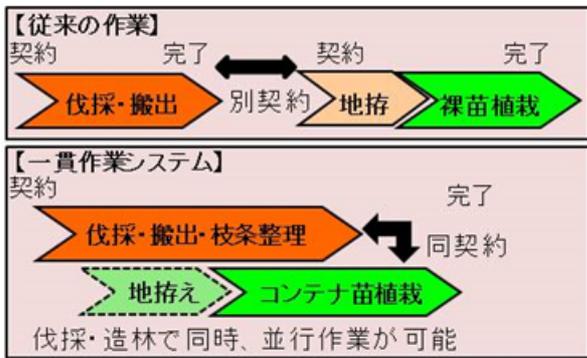
今後も、東北財務局では、地域のメインプレイヤーが課題を共有し、その解決に向け一体となって取り組み、地域の活性化につながるようなフォーラムを企画していきたいと考えています。

我が国では、高度経済成長期に植栽した多くの人工林が本格的な利用期を迎えています。この森林資源を循環利用して林業の成長産業化を実現することが大変重要です。しかし、現在木を伐って生産された丸太の販売収入に対し森林・林業経営コストが高くなっていることから、林業の低コスト化が求められています。

東北5県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県）に所在する国有林約165万haを管理経営している東北森林管理局では、林業の低コスト化の達成のため、多様なフィールドを活用し、林業関係者と連携して、先駆的な技術について事業レベルでの実証や新たな技術開発を進めています。さらに、現地検討会を開催するなどして、林業関係者との情報交換や普及活動を行うことで、林業の成長産業化の実現を目指しています。

今回は、東北森林管理局における、林業の低コスト化に向けた取組についてご紹介します。

東北森林管理局では、「木を伐って出す作業（生産事業）」と「伐った跡地に木を植える作業（造林作業）」を同時に発注するとともに、作業適期が長くとれ、従来より効率的な造林作業を行える「コンテナ苗」を可能な限り使用することで、作業の省力化や低コスト化、作業期間の短縮を図る取組を行っています。この取組を「一貫作業システム」と称しており、平成23年度より試験的に実施してきましたが、平成28年度より東北森林管理局管内全域で実施しています。



▲従来の作業と一貫作業システムの比較



▲コンテナ苗

また、東北森林管理局では、自ら率先して林業低コスト化に向けた取組を行うだけでなく、得られた技術・知見を普及させるため、民有林関係者の皆様との現地検討会を積極的に開催しています。平成28年度に開催した一貫作業システム現地検討会では、参加者から「現地を見ることにより実際の作業を肌で感じる事が出来た。」「今回は、コンテナ苗の運搬や植栽をしている状況も見たい。」等の感想や意見をいただき、一貫作業システムの意義等について理解を深めていただけたと考えています。今後も、林業低コスト化に向けて、技術や知見を積極的に民有林関係者の皆様へ情報発信してまいります。



▲現地検討会の様子

【手づくり郷土賞】～磨いて 光った 郷土自慢～

「手づくり郷土賞」は、地域特有の自然や文化、産業などの資源および社会資本を活かした地域づくり活動と、それに関わった団体のご努力を表彰する国土交通大臣表彰制度であり、今年で32回目の開催となります。本制度により、社会資本を通じた地域活動を広く紹介することで、魅力ある郷土づくりが全国各地でより一層発展していくことを目指しています。

「手づくり郷土賞」には、一般部門と大賞部門の2つの部門があります。一般部門では、地域の魅力や個性を生み出している社会資本と地域活動が一体となった成果を、大賞部門では、一般部門で「手づくり郷土賞」

を受賞した後、更なる活動内容の充実が行われた等の発展のあったものを募集対象としています。

昨年度、東北地方整備局管内からは一般部門で2団体が受賞しました。このうち、グランプリを受賞した『桜ライン311ー未来へのまちづくりー』（岩手県陸前高田市）では、市内約170kmに渡る津波到達ラインに桜を植樹し、津波の際は桜並木より上に避難するよう伝承していく活動により、地域の防災意識の向上を目指しています。また、『新庄市エコロジーガーデンー先人が築いた歴史を次の世代へー』（山形県新庄市）では、昭和初期の歴史的建造物群やその周辺空間を活用し、地元の農産物や手づくり雑貨等を出店する「キトキトマルシェ」の開催や、コミュニティカフェの運営を行い、地域の賑わいづくりに貢献しています。

今年度は、6月26日から募集が行われ、9月1日まで応募を受け付けています。募集内容の詳細につきましては、下記の手づくり郷土賞ホームページをご覧ください。皆さんが磨いた“ふるさと”を、ここで自慢してみませんか？ ご応募をお待ちしています。

【手づくり郷土賞ホームページ】

<http://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/B00097/K00360/tezukurifurusato/index.html>

『桜ライン311ー未来へのまちづくりー』
認定特定非営利活動法人 桜ライン311



▲市内外からの参加者による植樹作業



▲植樹を行った桜並木と受賞団体メンバー

『新庄市エコロジーガーデンー先人が築いた歴史を次の世代へー』
新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会



▲キトキトマルシェの様子



▲ボランティアスタッフの若者たち

応募方法

■応募団体（各部門共通）

地域の社会資本を有効活用し、地域づくり等に取り組む活動団体が単体で、または社会資本を管理する地方公共団体（都道府県、市区町村）と共同で応募するものとします。

■応募資料

応募用紙及び参考資料とその電子データ

※応募要領及び応募用紙については、国土交通省ホームページよりダウンロードしてください。
(http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/te dukuri/what_furusato/what_furusato.html)

■応募方法

応募資料を、募集期間内にお近くの各地方整備局等に提出してください。

提出された応募資料は各地方整備局等にて取りまとめの後、国土交通本省に提出されます。「手づくり郷土賞」の対象とならないものがあつた場合は、各地方整備局等よりその旨通知いたします。

■発表会について

受賞団体決定後、東京都内において受賞団体によるプレゼンテーションなど活動の発表会（交流会）を予定しております。発表会では受賞団体のなかから各部門のグランプリを選出します。

平成29年6月26日

平成29年9月1日

平成29年10月～12月

平成30年1月～

平成30年2月～

募集開始

募集締切

選定委員会開催

選定結果発表・
発表会

認定証
授与式

国土交通省の手づくり郷土賞ホームページにて、過去の受賞事例等をご覧ください。

(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/te dukuri/>)



○問い合わせ先

東北地方整備局 企画部 企画課
TEL：022-225-2171
仙台市青葉区本町 3-3-1

○事務局

国土交通省 総合政策局
公共事業企画調整課
TEL：03-5253-8111
東京都千代田区霞が関 2-1-3

手づくり郷土賞

で

検索

編集後記

東北各地では夏祭りが始まり、多くの人が訪れ大きな賑わいを見せていますが、心配なのが天候です。8月に入りやっと梅雨明けが発表されましたが、仙台市内をはじめ各地で梅雨空が続いています。今後、晴天に恵まれた中で盛大に開催されることを期待したいと思います。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。